

大腸癌研究会プロジェクト研究

「腹腔鏡下直腸癌手術に関する研究」議事録

2011年7月7日(木) 14:00-16:00 都市センターホテル 6F「606」

1. Clinical stage0-I直腸がんに対する腹腔鏡下手術の妥当性の前向き試験

短期成績は本年 SAGES で報告する。(山本)

その他の合併症の risk factor, 肥満患者と非肥満患者, 性別による手術成績などは, 希望者が学会発表や論文化を行う。

一例以上の登録をした参加施設代表者は何らかの形で名前が載るようにする。

2. StageIV大腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義

StageIVにおける腹腔鏡下手術は短期,長期成績共に良かった。

この結果は投稿中である。(肥田)

以下についても論文を作成中である。

- ・大腸癌 stageIV症例における術後 CRP に関する因子の解析および CRP と長期予後の相関 (伊藤)
- ・ Conversion の癌に対する影響 (長谷川)
- ・ 転移部位別手術困難性の評価 (長谷川)

3. 高齢者における腹腔鏡下大腸切除術の有効性と安全性に関する後向き研究

約 2,000 例の背景をそろえて解析した結果, 結腸癌では短期, 長期成績共に腹腔鏡群がすぐれている可能性があったが, 直腸癌では両者に有意差はなかった。(檜井)

さらに「高齢者に対する腹腔鏡下手術の適応」と「高齢者に対する腹腔鏡下大腸癌手術の施設経験と結果の比較」について検討する。(長谷川)

4. 横行結腸癌, 下行結腸癌の retrospective な検討

6月30日までに23施設から1013例の登録があり, 横行結腸癌:下行結腸癌=7:3であった。なお本研究のプロトコール(実施計画)を大腸癌研究会ホームページ上で公開した。

(田代)

その他のテーマも募集する。

5. 腹腔鏡下 ISR 症例の後ろ向き研究

今回プロトコール案が報告された。(伊藤)

以下はプロトコールに関する議論である。

研究計画書について:

- ・シエーマにて7項目の解析は開腹手術と同じ項目を設定した。

- ・選択基準は3年経過観察を完了した症例とする.
- ・腹腔鏡下では側方郭清を施行した症例はほとんどないため除外する.

4. 観察・検査項目

術前因子の2で腫瘍下縁からDLまでの距離に関しては術中、術前の評価は難しいため方法は検討してもらう。

倫理委員会の承認にむけて再検討する。

手術因子は開腹の項目と同じだが手術記事などから判断することは難しい。この件に関して再検討する。

術後短期成績の項目に血管処理の場所、脾湾曲授動の有無、縫合数、身長、体重、SSIなどを加える。

各施設で本案を再検討し、次回会議で検討することとした。

以上